

幌延深地層研究計画における地上からの
調査研究段階研究成果報告書
- 分冊・地層処分研究開発のレビューについて -



平成19年3月9日

地層処分研究開発部門
地層処分基盤研究開発ユニット

油井 三和

本報告書の目的と現状

目的

深地層の科学的研究(別分冊)

地層処分研究開発における設計や安全評価手法の適用性の確認

地上からの調査研究段階(第1段階)における設計や安全評価手法に関わる留意点の整理

現状

深地層の科学的研究は第1段階(2001年3月～2006年3月の5ヵ年)の成果を網羅しているが、その成果を用いる地層処分研究開発とは、1年程度の時間的ギャップが生じている。

JAEA第1期中期計画の目標の一つである「**精密調査における地上からの調査で必要となる技術基盤の整備**」では、これらのギャップを含めて成果のとりまとめを行う。

コメントの分類と対応

(コメント)

(対応)

明確化のための質問(Q)

修正

示唆・推奨(S)

解説

称賛(C)

無修正

その場で補足説明

幌延の第一段階研究成果報告書レビュー 主なコメント対応

	コメント	対応案	分類
全体	設計手法及び安全評価手法の適用性確認の目標に向けて、幌延を対象として課題はよく整理されている。事業や規制への反映の視点で有益な成果を期待する。	ありがとうございます。激励と捉えさせて頂き、更に目標に向けて努力致します。	C / 無修正
	どのような読者を対象に、何を知らしめたいのかを吟味する必要性を感じる。適切な言葉を選び、読者に理解してもらいたいことを伝えるレポートとすべき。	読者は地層処分の専門家です。言葉使用に関しては、各委員のコメントを参考に見直します。	Q / 修正・ 解説
	幌延サイトの特徴を最大限利用して、処分研究への貢献を考慮して報告されていると理解する。工学技術の開発では、実環境における調査の最新情報を設計に反映し、安全評価など知見情報のフィードバックの視点が目的として明確に掲げられていることを受けた成果を期待する。	ありがとうございます。激励と捉えさせて頂き、更に目標に向けて努力致します。	C / 無修正
第1章	「深地層の科学的研究」と「地層処分研究開発」との関係を簡単にわかりやすく示して欲しい。	外部の読者が混乱しないよう、図を用いて両者の関係を記述させていただきます。	S / 修正
	安全規制の指針の整備など未定の事柄や、規制を具体化するための議論を支える知識など幌延の成果と関連がはっきりしない記述は不適切。また、「不確実性」は、処分の安全性の上では長期のものを指すのであり、科学と経験で対処できる「不均一性」との違いに注意すべし。	規制への反映など未定な事柄ではありますが、国の安全規制に関する計画を引用しつつ、記述するよう心がけております。不確実性と不均一性の対応については、記述の適切性について検討します。	S / 解説
第2章	第2次取りまとめを引例や対照とする記述が特に第2章で頻繁に出てくる。その意味するところが必ずしも明瞭でない箇所がある。	第2次取りまとめについては、必要最小限の記述にとどめますが、技術のベースとして取り扱っております。	S / 修正
第3章	一連の安全評価手法が適用可能であることが示せたわけではなく、適用して見せただけである。解析は、やろうと思えばいくらでも出来る。適用できない事例があるとするれば、それが何かを示す方が重要ではないか。	仰るとおりです。適用性についてはSpecificであるが故、現実性、実現性を重視し記述に心がけておりますが、失敗例、反省例については記述を見直します。	S / 解説
	設計へのフィードバックが重要なことは冒頭で著者自身が述べていることであり、それが目標でもあったはずである。しかし、設計にフィードバックし得たと言えるであろうか？ここで、今後の課題のような捉え方をするのは冒頭の目的から見ておかしい。	大上段に構えた目的の割には、成果が貧弱という点は否めません。地層の複雑さに対して謙虚かつ正直な記述に心がけます。	Q / 修正